

授 業 計 画

平成 24 年度

Syllabus 2012

兵庫大学大学院

経済情報研究科

経済情報専攻修士課程

平成24年度入学者に係る教育課程表(案)

授 業 科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		免 許 等 必 修	学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)				担 当 者 平成24年度の 担 当 者	備 考
			必 修	選 択		1 年		2 年			
						I	II	I	II		
1 群 (経 済 ・ 金 融 ・ 商 業 系 科 目)	理論経済研究A	講義		2		2				森 義隆	
	理論経済研究B	講義		2			2			森 義隆	
	経済システム研究A	講義		2		2				開講せず	
	経済システム研究B	講義		2			2			開講せず	
	公共経済研究A	講義		2		2				開講せず	
	公共経済研究B	講義		2			2			開講せず	
	環境経済研究A	講義		2		2				池本 廣希	
	環境経済研究B	講義		2			2			池本 廣希	
	産業組織研究A	講義		2		2				石原 敬子	
	産業組織研究B	講義		2			2			石原 敬子	
	国際経済研究A	講義		2		2				開講せず	
	国際経済研究B	講義		2			2			開講せず	
	国際関係研究A	講義		2		2				斎藤 正寿	
	国際関係研究B	講義		2			2			斎藤 正寿	
	地域経済研究A	講義		2		2				(田端 和彦)	
	地域経済研究B	講義		2			2			(田端 和彦)	
	地域政策研究A	講義		2		2				瀧本 眞一	
	地域政策研究B	講義		2			2			瀧本 眞一	
	社会政策研究A	講義		2		2				(河野 真)	
	社会政策研究B	講義		2			2			(河野 真)	
	証券市場研究A	講義		2		2				高本 茂	
	証券市場研究B	講義		2			2			高本 茂	
	商業史研究A	講義		2		2				開講せず	
	商業史研究B	講義		2			2			開講せず	
	特殊研究 I A	講義		2		2				開講せず	
	特殊研究 I B	講義		2			2			開講せず	
2 群 (経 営 ・ 会 計 系 科 目)	経営学研究A	講義		2		2				竹川 宏子	
	経営学研究B	講義		2			2			竹川 宏子	
	財務分析研究A	講義		2		2				開講せず	
	財務分析研究B	講義		2			2			開講せず	
	制度会計研究A	講義		2		2				開講せず	
	制度会計研究B	講義		2			2			開講せず	
	税務会計研究A	講義		2		2				三宅 伸二	
	税務会計研究B	講義		2			2			三宅 伸二	
	税法研究A	講義		2		2				三宅 伸二	
	税法研究B	講義		2			2			三宅 伸二	
	マーケティング研究A	講義		2		2				開講せず	
	マーケティング研究B	講義		2			2			開講せず	
	地域計画研究A	講義		2		2				(田端 和彦)	
	地域計画研究B	講義		2			2			(田端 和彦)	
	地域行政研究A	講義		2		2				木下 準一郎	
	地域行政研究B	講義		2			2			木下 準一郎	
	企業経営事例研究(実習含)	講・演		2				2		開講せず	
特殊研究 II A	講義		2		2				開講せず		
特殊研究 II B	講義		2			2			開講せず		

平成24年度入学者に係る教育課程表（案）

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		免許等必修	学年配当（数字は週当り授業時間）				担当者 平成24年度の担当者	備考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
3 群 （ 情 報 ・ 数 理 系 科 目）	経営システム研究A	講義		2		2				開講せず	
	経営システム研究B	講義		2			2			開講せず	
	情報システム研究A	講義		2		2				榎木 浩	
	情報システム研究B	講義		2			2			榎木 浩	
	情報処理研究A	講義		2		2				高野 敦子	
	情報処理研究B	講義		2			2			高野 敦子	
	情報伝達研究A	講義		2		2				榎木 浩	
	情報伝達研究B	講義		2			2			榎木 浩	
	情報検索研究A	講義		2		2				穂積 隆広	
	情報検索研究B	講義		2			2			穂積 隆広	
	コンピュータグラフィックス研究A	講義		2		2				田中 正彦	
	コンピュータグラフィックス研究B	講義		2			2			田中 正彦	
	情報通信研究A	講義		2		2				堀池 聡	
	情報通信研究B	講義		2			2			堀池 聡	
	統計分析研究A	講義		2		2				開講せず	
	統計分析研究B	講義		2			2			開講せず	
	情報数学研究A	講義		2		2				山本 真弓	
	情報数学研究B	講義		2			2			山本 真弓	
	情報数理研究A	講義		2		2				開講せず	
	情報数理研究B	講義		2			2			開講せず	
	情報法学研究A	講義		2		2				開講せず	
	情報法学研究B	講義		2			2			開講せず	
	情報教育研究A	講義		2		2				森下 博	
情報教育研究B	講義		2			2			森下 博		
特殊研究ⅢA	講義		2		2				開講せず		
特殊研究ⅢB	講義		2			2			開講せず		
	特別研究(論文指導)	演習	8					8		*参照	
	合計		8	138							

* 池本、三宅、高本、堀池、石原、山本、穂積、榎木、竹川

平成23年度入学者に係る教育課程表(案)

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		免許等必修	学年配当(数字は週当り授業時間)				担当者 平成24年度の担当者	備考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
1 群 (経 済 ・ 金 融 ・ 商 業 系 科 目)	理論経済研究A	講義	2			2					
	理論経済研究B	講義	2				2				
	経済システム研究A	講義	2			2					
	経済システム研究B	講義	2				2				
	公共経済研究A	講義	2			2					
	公共経済研究B	講義	2				2				
	環境経済研究A	講義	2			2					
	環境経済研究B	講義	2				2				
	産業組織研究A	講義	2			2					
	産業組織研究B	講義	2				2				
	国際経済研究A	講義	2			2					
	国際経済研究B	講義	2				2				
	国際関係研究A	講義	2			2					
	国際関係研究B	講義	2				2				
	地域経済研究A	講義	2			2					
	地域経済研究B	講義	2				2				
	地域政策研究A	講義	2			2					
	地域政策研究B	講義	2				2				
	社会政策研究A	講義	2			2					
	社会政策研究B	講義	2				2				
証券市場研究A	講義	2			2						
証券市場研究B	講義	2				2					
商業史研究A	講義	2			2						
商業史研究B	講義	2				2					
特殊研究 I A	講義	2			2						
特殊研究 I B	講義	2				2					
2 群 (経 営 ・ 会 計 系 科 目)	経営学研究A	講義	2			2					
	経営学研究B	講義	2				2				
	財務分析研究A	講義	2			2					
	財務分析研究B	講義	2				2				
	制度会計研究A	講義	2			2					
	制度会計研究B	講義	2				2				
	税務会計研究A	講義	2			2					
	税務会計研究B	講義	2				2				
	マーケティング研究A	講義	2			2					
	マーケティング研究B	講義	2				2				
	地域計画研究A	講義	2			2					
	地域計画研究B	講義	2				2				
	地域行政研究A	講義	2			2					
	地域行政研究B	講義	2				2				
	企業経営事例研究(実習含)	講・演	2					2		開講せず	
	特殊研究 II A	講義	2			2					
特殊研究 II B	講義	2				2					

平成23年度入学者に係る教育課程表（案）

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		免許等必修	学年配当（数字は週当り授業時間）				担当者 平成24年度の担当者	備考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
3 群 （情 報 ・ 数 理 系 科 目）	経営システム研究A	講義	2			2					
	経営システム研究B	講義	2				2				
	情報システム研究A	講義	2			2					
	情報システム研究B	講義	2				2				
	情報処理研究A	講義	2			2					
	情報処理研究B	講義	2				2				
	情報伝達研究A	講義	2			2					
	情報伝達研究B	講義	2				2				
	情報検索研究A	講義	2			2					
	情報検索研究B	講義	2				2				
	コンピュータグラフィックス研究A	講義	2			2					
	コンピュータグラフィックス研究B	講義	2				2				
	情報通信研究A	講義	2			2					
	情報通信研究B	講義	2				2				
	統計分析研究A	講義	2			2					
	統計分析研究B	講義	2				2				
	情報数学研究A	講義	2			2					
	情報数学研究B	講義	2				2				
	情報数理研究A	講義	2			2					
	情報数理研究B	講義	2				2				
	情報法学研究A	講義	2			2					
	情報法学研究B	講義	2				2				
	情報教育研究A	講義	2			2					
情報教育研究B	講義	2				2					
特殊研究ⅢA	講義	2			2						
特殊研究ⅢB	講義	2				2					
	特別研究(論文指導)	演習	8				8			*参照	
	合計		8	138							

* 池本、三宅、高本、堀池、石原、山本、穂積、榎木、竹川

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	理論経済研究 A				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

今回の講義テーマは「マクロ経済学の本質の基礎づけ」である。'80年代以降、従来のケインズ経済学的マクロ均衡に対して厳しい批判の対象となったミクロ的行動仮定や市場での競争形態などの前提を再検討する。

《テキスト》

『経済政策とマクロ経済学』 岩本/大竹/斎藤/二神著、日本経済新聞社、1999年

《参考文献》

『マクロ安定化政策と日本経済』 浅子和美（岩波書店）2000年

《授業の到達目標》

最近のマクロ経済動学をサーヴェイすることにより、現在の経済学の有効性がどれだけ高まったのか、いまなお残る分析上の不備や解決すべき課題を整理し、確定する。

《授業時間外学習》

外国文献を読み、論文展開のスキルを身につけるため、要約および部分訳を自宅学習として課する。

《成績評価の方法》

購読、研究発表(50点)とレポート(50点)で評価する。

《備考》

理論の内容を正確に理解したかどうかをチェックするために、関連するテーマのレポートを提出してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義計画	現代のマクロ経済学の基本パラダイムの確認
2	IS/LMモデルと経済政策	IS/LMモデルの基本構造、財政・金融政策の効果判定と若干の疑問
3	マクロ経済モデルと市場原理主義	新しいマクロ経済学と経済政策の時間整合性
4	バブル経済の展開と帰結	投資ブームと資産デフレ レポート(1)の提出
5	財政政策の効果	財政の二重基準はなぜ生じるのか ミクロ経済学とマクロ経済学の分裂
6	景気対策の費用便益分析	費用と便益の評価方法
7	景気対策と行政改革	協調の失敗と政府の役割
8	財政構造改革の失敗	質的議論を欠いた歳出削減 レポート(2)の提出
9	現代の金融政策	政策目標間の相克
10	物価安定と景気対策	フィリップス曲線をめぐる議論、合理的期待形成仮説の意味
11	バブル経済と金融政策	円高不況、金融政策、資産価格高騰と中央銀行の責任
12	金融政策の有効性	流動性の罫と金融政策、流動性総量と物価問題、インフレ目標仮説 レポート(3)の提出
13	高失業時代の経済政策	失業のマクロ経済学フィリップス教線を中心とした失業分析、インサイダー・アウトサイダー理論、効率賃金仮説
14	失業率上昇の理解	1998年のわが国の失業率上昇をどう理解するか、部門間移動と失業率の変化
15	雇用・失業問題への政策的対応(総括)	派遣労働者の出現とその理由、長期雇用制度の変容、職業訓練・能力開発のための制度 レポート(4)の提出

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	理論経済研究 B				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

日本経済は1980年代後半に起こったバブル景気が90年代初頭には崩壊・終焉し、不良債権の処理と円高不況に襲われ未曾有の「デフレ」に10年（あるいは20年）間悩まされている。この間金融政策は超低金利、量的緩和政策の基調にあったが、こうした政策発動もむなしく、いまなお厳しいデフレ不況にある。この講義では、そのデフレ不況を実証的に解析した研究書を取り上げ、全体を概観する一歩である。

《授業の到達目標》

1990年代から続く経済不況＝停滞の真の原因はなにか、それはどのようなメカニズムで生じたのか、そのとき財政や金融の政策はどのような内容で、どのような効果があったのか、計量経済の分析手法を用いて考察する。また、過去の類似の事例（大恐慌）を内外の経験に引き寄せて、比較検討する。こうして現在のデフレ不況の淵源と帰結を学び、現在の立ち位置を確認する。

《成績評価の方法》

平常の講読、発表(50点)、レポート提出(50点)で評価する。

《テキスト》

原田・岩田編著『デフレ不況の実証分析』東洋経済新報社、2002

《参考文献》

内閣府『経済財政白書』各年版
岩田・宮川編『失われた10年の真因は何か』東洋経済新報社、2003

《授業時間外学習》

この20年間の新聞記事やインターネットでの記事、事項検索を課題としてその都度行う。政府、日銀、企業、消費者などの経済主体が当時どのように事態の推移を見ていたか、各自に理解させる。

《備考》

テキストは必ず購入すること。新聞やテレビでの経済ニュースは毎日見て確認すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義概要と計画	1990年代の日本経済の長期停滞の原因を探る、分析の方法と政策効果の測定法
2	第1章 90年代の日本経済の概観	バブル経済崩壊後の長期不況の性格
3	第2章 停滞の「構造主義的」理解	デフレ・ギャップと潜在成長率の下方屈折
4	産業構造調整問題	構造変化をどうとらえるか、成長率屈折の構造的要因
5	第3章 マクロ経済政策の効果	財政政策と金融政策 誘導型計量経済モデルを使った実証分析
6	金融政策の問題	インパルス応答関数と分散分解、歴史的分解の方法 レポート(1)の提出
7	第4章 賃金の硬直性と金融政策の衝突	生産と実質賃金 賃金高止まりの論理 フィリップス曲線の変化
8	賃金の硬直性とAD-ASモデル	モデルの推計と検証結果
9	第5章 資産デフレとバランスシート調整	資産価格と設備投資 貸出市場モデルの分析
10	銀行行動と企業行動の変化	企業の資金調達行動 エージェンシー・コストの問題
11	貸出市場の実証分析	企業の設備投資需要関数の推定 レポート(2)の提出
12	第6章 銀行破綻とマクロ経済	アメリカ大恐慌時の事例 伝統的なマクロ経済学による診断、バーナンキの分析
13	時系列の回帰分析	日本の拓銀破綻のケース
14	第7章 大恐慌と昭和恐慌	不良債権処理のシステム
15	現代日本の金融政策/まとめ	政策レジームの変更 レポート(3)の提出

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	環境経済研究A				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

環境問題の所在と論点を講義し、環境経済の現代的意義を考える。環境経済研究を深めていくために、西洋と東洋の自然認識の違いを学修し、自らの自然認識を鍛える。

《テキスト》

なし

《参考文献》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社、2008年

《授業の到達目標》

3, 11東日本大震災以降の環境問題について深い洞察力を持つこと。自分なりの自然認識を鍛えること。エネルギー・資源・環境問題についてあらかじめ自分の意見を持つこと。

《授業時間外学習》

気になる環境問題について調べる。

《成績評価の方法》

課題提出と発表 50% 口頭試問 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	環境経済研究Aの講義概要について
2	環境問題の所在	VTR 「地球環境白書」を觀賞する。世界の環境問題の実情から環境問題の所在を明らかにする。
3	環境問題の所在	VTR 「CO2を減らそう」を觀賞する。地球温暖化対策について調べ、環境問題と経済学の関連について考える。
4	環境問題の所在	3.11東日本大震災と環境問題から問題の所在、問題の切り口を考える。
5	環境経済研究	人類の歴史と環境問題
6	環境経済研究	人口問題と環境問題
7	環境経済研究	食料問題と環境問題
8	環境経済研究	エネルギー問題と環境問題
9	環境経済研究	産業革命と環境問題
10	新しい環境経済学	経済学のあゆみとこれからの経済学
11	新しい環境経済学	競争の原理と共生の原理
12	新しい環境経済学	市場の失敗と共有地を持たない悲劇
13	新しい環境経済学	脱近代と脱原発について
14	新しい環境経済学	地域自治といなみ野ため池灌漑
15	まとめ	

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	環境経済研究B				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

シュマツハ 著『Small is beautiful』を輪読し、発表者にレジュメを用意させ環境問題について意見交換する。環境経済について研究テーマを設定し発表させる。

《テキスト》

シュマツハ著『スモール イズ ビューティフル』講談社芸術文庫, 1973年

《参考文献》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社, 2008年

《授業の到達目標》

環境経済に関するテーマを自分で設定し、データ・資料・画像を収集し、研究成果をパワーポイントで編集し発表すること。

《授業時間外学習》

テーマ研究活動

《成績評価の方法》

研究成果発表 70% 授業中のレジュメの発表 30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	環境経済研究AとBの関係について
2	研究図書輪読	シュマツハ 著『Small is beautiful』 第1章
3	研究図書輪読	シュマツハ 著『Small is beautiful』 第2章
4	研究図書輪読	シュマツハ 著『Small is beautiful』 第3章
5	研究図書輪読	シュマツハ 著『Small is beautiful』 第4章
6	研究図書輪読	シュマツハ 著『Small is beautiful』 第5章
7	テーマ研究	環境経済に関するテーマの設定とその説明
8	テーマ研究	環境経済に関するテーマの設定とその説明
9	テーマ研究	環境経済に関するテーマの設定とその説明
10	テーマ研究	環境経済に関するテーマの設定とその説明
11	テーマ研究	環境経済に関するテーマの設定とその説明
12	テーマ研究	テーマ研究成果報告
13	テーマ研究	テーマ研究成果報告
14	テーマ研究	テーマ研究成果報告
15	まとめ	

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	産業組織研究 A				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

産業組織論は、現実の諸産業を研究対象とする経済学の一領域であり、ここでの研究成果は現実の競争政策や規制改革の理論的基礎を提供している。

この授業では、テキストを輪読しながら、競争政策に関わる諸問題(独占問題、カルテル・談合の弊害、M&Aの経済効果など)について理論的に考察するとともに、現実の競争政策の動向についてもとりあげ勉強する。

《授業の到達目標》

競争政策や規制改革など、現実産業に対する政策のあり方について分析するための専門知識・理論を身につける。

《成績評価の方法》

授業への参加の姿勢、授業時に行う報告、学期末のレポートをもって行う。(評価の割合は、授業態度30%、報告内容20%、レポート50%)

なお、出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要	この授業でどのようなことを学ぶのかを確認する。
2	市場経済における競争の役割	競争の意義、競争の経済効果について考察する。
3	産業組織論の分析枠組	産業組織論の基礎理論、諸概念について学ぶ。
4	競争政策とは	競争政策の目的、概要、産業組織論とのかかわりについて学ぶ。
5	カルテル・談合	カルテル・談合に関する問題を、経済理論に基づいて考察する。
6	参入の経済効果	コンテストアブル市場理論を取り上げ、参入の経済効果について考察する。参入阻止戦略についても考察する。
7	市場独占	独占に関する問題を、経済理論に基づいて考察する。
8	合併・買収	合併・買収に関する問題を、経済理論に基づいて考察する。
9	垂直的取引制限	垂直的取引制限に関する問題を、経済理論に基づいて考察する。
10	廉価販売	不当廉売、略奪的価格設定に関する問題を、経済理論に基づいて考察する。
11	優越的地位の濫用	優越的地位の濫用に関する問題について考察する。
12	イノベーションと知的財産権	技術革新と競争の役割、知的財産権と競争政策をめぐる問題について考察する。
13	公益事業における競争	公益事業と規制に関わる問題、競争の経済効果について考察する。
14	レポートの内容についての中間報告	各自が取り組んでいる学期末のレポートについて報告し、議論する。
15	レポートの内容についての報告	各自が作成したレポートの内容を報告する。

《テキスト》

小田切宏之著『競争政策論 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社、2008年。

《参考文献》

R. ビトフスキー著/石原敬子・宮田由紀夫訳『アメリカ反トラスト政策論 シカゴ学派をめぐる論争』晃洋書房,2010年。

W. ポーモル著/足立英之監訳『自由市場とイノベーション』勁草書房,2010年。

その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

・あらかじめ次の授業で勉強する内容を伝えるので、テキストの該当箇所を熟読しておくこと。

・経済理論に関する学習は、積み重ねが重要である。授業で学んだ内容についてはしっかりと復習しておくこと。

《備考》

授業では、報告者を割り当て、報告内容に基づいて種々議論しながら理解を深めていく。授業計画は下記のとおりであるが、状況に応じて、受講者と相談のうえ、変更する場合がある。

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	産業組織研究 B				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

競争政策は今日、自由主義経済体制において根本的に重要な経済政策と位置づけられている。この授業では、競争政策の理論的根拠について勉強するとともに、アメリカの反トラスト政策、日本の独占禁止政策をとりあげ、現実の独占問題や合併規制、カルテル規制をめぐる問題などを検討し、競争政策の方向性について考察する。

《授業の到達目標》

- ・競争政策の意義について理解し、現実問題について深く考察するための専門知識を身につける。
- ・現実の競争政策の動向、政策施行に伴う問題について、経済理論に基づいて考察できるようになる。

《成績評価の方法》

授業への参加の姿勢、授業時の報告内容、学期末のレポートをもって行う。（評価の割合は、授業態度30%、報告内容20%、レポート50%とする）

なお、出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《テキスト》

受講者と相談のうえ決定する。

《参考文献》

岡田羊祐/林秀弥編『独禁法の経済学』東京大学出版会,2009年。後藤晃/鈴木興太郎編『日本の競争政策』東京大学出版会,1999年。滝川敏明著『日米EUの独禁法と競争政策,第4版』青林書院,2010年。石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房,1997年。
その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

あらかじめ次の授業で勉強する内容を伝えるので、テキストの該当箇所を熟読しておくこと。
毎回の授業内容についてテキストをもう一度読み返してしっかりと復習すること。さらに、参考文献を用いて理解を深めるように努めよう。

《備考》

授業では、毎時間報告者を割り当て、報告内容に基づいて議論しながら理解を深める。使用するテキストによっては、下記の授業計画を若干変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要	この授業でどのようなことを学ぶのかを確認する。
2	競争政策の原理に関する考察(1)	ハーバード学派の政策論について考察する。
3	競争政策の原理に関する考察(2)	シカゴ学派の政策論について考察する。
4	競争政策の原理に関する考察(3)	新オーストリア学派の政策論について考察する。
5	競争政策の原理に関する考察(4)	取引費用理論と競争政策について考察する。
6	独占問題に対する政策(1)	独占問題の所在、支配的企業の企業戦略と競争政策上の問題について考察する。
7	独占問題に対する政策(2)	ボトルネック型独占について考察する。
8	合併規制(1)	合併分析について検討する。
9	合併規制(2)	具体的な合併問題について考察する。
10	カルテル規制(1)	カルテル・談合に関する経済分析について考察する。
11	カルテル規制(2)	カルテル・談合に対する現実政策について考察する。
12	日米の競争政策の比較(1)	日本の独禁政策とアメリカ反トラスト政策の歩みについて考察する。
13	日米の競争政策の比較(2)	日本の独禁政策とアメリカ反トラスト政策の違いについて考察する。
14	レポートの内容に関する中間報告	各自が取り組んでいるレポートの内容について報告し、議論する。
15	レポートの内容に関する報告	各自が作成したレポートの内容について報告する。

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	国際関係研究A				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期

《授業の概要》

経済系の研究を志向される学生諸君に、経済と政治の密接な関係、とりわけ近代主権国家をプレイヤーとする国民経済をめぐるロー・ポリティクスについての明快な視野を得ていただくために、本演習を開講します。国際関係論においてこの分野をカバーする領域を国際政治経済学（International Political Economy）と呼びます。この国際政治経済学の「古典」をじっくりと読んでいきたいと思えます。

《授業の到達目標》

○政治経済学の基本的な考え方が修得できる。

《テキスト》

Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations

《参考文献》

演習の中で適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎演習の中での報告内容（70%）とレポート（30%）によって評価をします。

《授業時間外学習》

毎週、一定量の英語論文を読んで理解した上で、演習に参加する必要があります。

《備考》

演習に参加するのに特別な国際関係論の知識は必要ありません。しかしテキストは英語ですので、英語が全くダメという方には向かない演習です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relationsの輪読
2	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relationsの輪読
3	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
4	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
5	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
6	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
7	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
8	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
9	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
10	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
11	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
12	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
13	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
14	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations の輪読
15	国際政治学の基本の修得	Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relationsの 輪読

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	国際関係研究B				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業の概要》

基本的には先学期の国際関係研究Aの方針を承けて、国際経済と国際政治の密接な関係に注目していきますが、先学期より少しだけ政治の方向へ力点を移動して、近代主権国家の来し方行く末を学生諸君と一緒に考えていきたいと思ひます。さしあたり、国家論の教科書を輪読しながら議論を進めていきます。

《テキスト》

Christopher Pierson, 1996. The Modern State

《参考文献》

演習の中で適宜紹介します。

《授業の到達目標》

○国家をめぐる政治学的な基本的議論を修得できる。

《授業時間外学習》

毎週、一定量の英語論文を読んで理解した上で、演習に参加する必要があります。

《成績評価の方法》

毎演習の中での報告内容（70%）とレポート（30%）によって評価をします。

《備考》

演習に参加するのに特別な国際関係論の知識は必要ありません。しかしテキストは英語ですので、英語が全くダメという方には向かない演習です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
2	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
3	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
4	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
5	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
6	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
7	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
8	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
9	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
10	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
11	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
12	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
13	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
14	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読
15	近代国家論の基本の修得	Christopher Pierson, 1996. The Modern State の輪読

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域経済研究A				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期

《授業の概要》

地域の競争力をテーマとして、各種の文献を輪読し、その知識を深める。

《テキスト》

授業内で指定する。

《参考文献》

R. Martin, etal "Regional Competitiveness" routledge、マイケル・E. ポーター、竹内 弘高訳『競争戦略論〈1〉〈2〉』ダイヤモンド社

《授業の到達目標》

地域経済、特に産業競争力に関する理論や考え方を理解する。

《授業時間外学習》

指定されたテキストを事前読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。

《成績評価の方法》

レポート及び、授業への参加状況。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文、図書の選定	テーマに関する図書、論文を示し、輪読の順番など進め方を決める。
2	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
3	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
4	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
5	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
6	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
7	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
8	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
9	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
10	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
11	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
12	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
13	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
14	論文、図書の輪読	順次、与えられた論文を読み報告を行う。
15	まとめ	課題のまとめレポートの作成。

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域経済研究B				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業の概要》

H. Armstrong著“Regional Economics and Policy”Blackwellを
輪読し地域経済の理論的基盤を理解する。

《テキスト》

H. Armstrong, J. Taylor“Regional Economics and Policy
third edition”Blackwell

《参考文献》

授業内で指示をする。

《授業の到達目標》

地域経済の経済学的、経済地理学的な理解を高める。

《授業時間外学習》

与えられた部分を事前に読み、レジュメを作成し、また質問等
に答えるように準備をする。

《成績評価の方法》

レポート及び、授業への参加状況。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進め方について	輪読の順番を決めるなど、授業の進め方を解説。
2	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
3	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
4	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
5	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
6	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
7	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
8	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
9	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
10	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
11	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
12	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
13	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
14	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
15	まとめ	まとめのレポート作成。

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域政策研究A				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期

《授業の概要》

資料に基づいて、講義や演習、討論などによって進めていく。資料や文献の担当を決めて毎回報告し、議論をする。

《テキスト》

特にテキストは使用せず、授業の進捗にあわせてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

現在の社会経済状況下で、「地域」や「都市」が、新しい経済や政治構成要素として注目を集めている。そこで、戦後日本の地域開発政策を検証しながら、さまざまな構造変化を後付けすることで、地域問題の原点を探っていく。特に、地域や都市類型に即して、地域経済の動向と地域政策展開の意義と問題点を検証する。

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、常にアンテナを張って、地域政策とは何かを考えてください。

《成績評価の方法》

数回を予定しているレポートによって評価する。(100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の狙いなどのガイダンス。輪読文献の決定
2	輪読	担当者による報告と議論
3	輪読	担当者による報告と議論
4	輪読	担当者による報告と議論
5	中間報告	これまでの内容による中間報告・レポート
6	輪読	担当者による報告と議論
7	輪読	担当者による報告と議論
8	輪読	担当者による報告と議論
9	輪読	担当者による報告と議論
10	中間報告	之までの内容による中間報告・レポート
11	輪読	担当者による報告と議論
12	輪読	担当者による報告と議論
13	輪読	担当者による報告と議論
14	輪読	担当者による報告と議論
15	最終報告	全体を通しての最終報告・レポート

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域政策研究B				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業の概要》

資料に基づいて、講義や演習、討論などによって進めていく。また、ケーススタディについての議論と検証をおこなう。

《テキスト》

特にテキストは使用せず、授業の進捗にあわせてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

地域政策研究Aの成果を踏まえて、具体的なエリアを取り上げてケーススタディをおこなう。対象地域の社会経済構造変化を各種の資料から多方面にわたって定性的・定量的に分析し、地域政策の効果を具体的に検証する。

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、常にアンテナを張って、地域政策とは何かを考えてください。

《成績評価の方法》

ケーススタディの成果によって評価する。(100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の狙いなどのガイダンス。ケーススタディの決定
2	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
3	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
4	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
5	ケーススタディの中間報告	ケーススタディの中間報告と議論
6	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
7	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
8	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
9	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
10	ケーススタディの中間報告	ケーススタディの中間報告と議論
11	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
12	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
13	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
14	ケーススタディの報告	ケーススタディの進捗報告と問題点などの議論
15	ケーススタディの最終報告	ケーススタディの最終報告と議論

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	社会政策研究A				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

社会政策は、国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに、守備範囲を拡大してきた。本講では社会政策を福祉国家政策として捉え、その構造的特質や制度発展の社会・経済・社会的背景、さらには福祉多元化に代表される福祉国家政策の今日的動向を国際比較の視点から考察する。社会政策研究Aでは、福祉国家のアウトカム分析に関する諸理論の解説が中心課題となる。

《授業の到達目標》

代表的な福祉国家理論、政治学理論、福祉多元主義理論の概要を把握する。
福祉国家のアウトカム分析の基礎的な手法と類型分類の知識を身につける。

《成績評価の方法》

期末のレポートおよびプレゼンテーション70%，達成度30%
(レポート課題により評価する)

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

初回講義時に文献目録を配布する。

《授業時間外学習》

限られた時間で、広範な知識を身につけなければならない。課題レポート作成を通じた予習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち、参考資料・参考文献は必ず熟読しておくこと。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり、社会政策の改善はなおざりにされてきたが、そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の課題と対象
2	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ1）	産業化理論
3	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ2）	権力資源論
4	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ3）	コーポラティズム
5	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ4）	福祉レジーム論 1
6	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ5）	福祉レジーム論 2
7	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ6）	福祉レジーム論 3
8	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ7）	国家論と政治過程分析アプローチ1
9	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ8）	国家論と政治過程分析アプローチ2
10	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ9）	ウェルフェアミックス・アプローチ1
11	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ10）	ウェルフェアミックス・アプローチ2
12	新しい接近方法 1	クオリティオブライフ（QOL）アプローチ
13	新しい接近方法 2	ソーシャルクオリティ（SQ）アプローチ 1
14	新しい接近方法 3	ソーシャルクオリティ（SQ）アプローチ 2
15	まとめ	研究のまとめとプレゼンテーション

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	社会政策研究B				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

本講では社会政策を福祉国家政策として捉え、その構造的特質や制度発展の社会・経済・社会的背景、さらには福祉多元化に代表される福祉国家政策の今日的動向を国際比較の視点から考察する。社会政策研究Bでは、福祉国家政策の趨勢、日本型福祉システムの特徴、福祉国家制度形成要因分析に関する諸理論の解説が中心課題となる。

《授業の到達目標》

福祉国家政策の趨勢について理解する。
日本型福祉システムの特徴を把握する。
福祉国家制度の形成要因を分析する手法を身につける。

《成績評価の方法》

期末のレポートおよびプレゼンテーション70%，達成度30%
(レポート課題により評価する)

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

初回講義時に文献目録を配布する。

《授業時間外学習》

限られた時間で、広範な知識を身につけなければならない。課題レポート作成を通じた予習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち、参考資料・参考文献は必ず熟読しておくこと。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり、社会政策の改善はなおざりにされてきたが、そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の課題と対象
2	福祉国家制度改革	諸外国における福祉改革の趨勢・背景
3	比較福祉国家分析 1	古典的手法を用いた比較分析
4	比較福祉国家分析 2	現代的手法を用いた比較分析
5	日本型福祉国家 1	日本型福祉システムの特徴1
6	日本型福祉国家 2	日本型福祉システムの特徴2
7	日本型福祉国家 3	日本型福祉システムの特徴3
8	福祉制度形成要因分析1	経済的要因 1
9	福祉制度形成要因分析2	経済的要因 2
10	福祉制度形成要因分析3	社会文化的要因 1
11	福祉制度形成要因分析4	社会文化的要因 2
12	福祉制度形成要因分析5	政治的要因1
13	福祉制度形成要因分析6	政治的要因2
14	福祉制度形成要因分析7	政治的要因3
15	まとめ	研究のまとめとプレゼンテーション

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	証券市場研究A				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

現代の証券市場について、モダンポートフォリオ理論（MPT）にもとづいて講義する。

《テキスト》

久保田敬一『ポートフォリオ理論』（日本経済評論社）

《参考文献》

特になし

《授業の到達目標》

証券についての理論経済学をマスターする。

《授業時間外学習》

株価の動きを常に注目すること。

《成績評価の方法》

日常の学習態度（50%）、レポート・課題（50%）

《備考》

日経新聞を読みこなすこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	証券経済学の基礎	1．投資家行動と分散化投資（1）
2	証券経済学の基礎	投資家行動と分散化投資（2）
3	証券経済学の基礎	2．ポートフォリオ理論の基礎（1）
4	証券経済学の基礎	ポートフォリオ理論の基礎（2）
5	証券経済学の基礎	3．市場効率性仮説と資本市場（1）
6	証券経済学の基礎	市場効率性仮説と資本市場（2）
7	証券経済学の基礎	4．わが国の資本市場と市場効率性（1）
8	証券経済学の基礎	わが国の資本市場と市場効率性（2）
9	証券経済学の基礎	5．オプション証券の理論（1）
10	証券経済学の基礎	オプション証券の理論（2）
11	証券経済学の基礎	6．資本市場均衡理論（1）
12	証券経済学の基礎	資本市場均衡理論（2）
13	証券経済学の基礎	7．危険分散と最適性（1）
14	証券経済学の基礎	危険分散と最適性（2）
15	証券経済学の基礎	復習とまとめ

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	証券市場研究B				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

金融派生商品（デリバティブ）の意義と危険性について講義する。（変更の場合あり）。

《テキスト》

岩田暁一『先物とオプションの理論』（東洋経済新報社）。

《参考文献》

特になし。

《授業の到達目標》

金融派生商品（デリバティブ）の意義と危険性について講義する。（変更の場合あり）。

《授業時間外学習》

株価の動きに常に注目すること。

《成績評価の方法》

日常の学習態度（50%）、レポート・課題（50%）

《備考》

日本経済新聞を読みこなしなさい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デリバティブとは何か	1．序論
2	金融工学	2．不確実性下の価格決定（1）
3	金融工学	不確実性下の価格決定（2）
4	金融工学	3．先物理論の展望（1）
5	金融工学	先物理論の展望（2）
6	金融工学	4．先物価格の分布（1）
7	金融工学	先物価格の分布（2）
8	金融工学	5．オプションとBSモデル（1）
9	金融工学	オプションとBSモデル（2）
10	金融工学	6．オプション理論の検討（1）
11	金融工学	オプション理論の検討（2）
12	金融工学	7．先物オプションの予備的分析
13	金融工学	8．個体間分布の理論
14	金融工学	9．個体間分布模型の実証
15	金融工学	10．予想理論の方向

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	経営学研究A				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

激しい企業環境の変化の中で企業を存続させ、成長させていくためには企業戦略が不可欠である。この講義では基礎的な経営学の知識を踏まえ、特に事業戦略に焦点を当てていく。戦略の理論については必要に応じて講義の中で取り上げていきたい。具体的な進め方としては、事業戦略論のテキストの輪読やディスカッションを通じて、現代社会における具体的な現象を経営学的視点から捉える力を養う。

《授業の到達目標》

実際の社会で観察される様々な企業行動を理解するために必要な経営学の基礎理論を説明できる。

経営戦略の基礎的な理論を理解し、これからの企業のあり方や企業社会について自ら考える力を養うことができる。

《成績評価の方法》

(1) 平常点(テキストのまとめ作成と報告)を50%(2) 授業内でのディスカッションを10%(3) レポート作成を10%(4) 授業時間内において行う持ち込み不可の確認テスト30%として評価する。

《テキスト》

『コア・テキスト事業戦略』宮崎正也、新世社、2011

《参考文献》

『MBA経営戦略』グロービス・マネジメント・インスティテュート編、ダイヤモンド社、1999

《授業時間外学習》

(1) 予習は、テキストのまとめ作成(該当箇所は、第1回目の授業時に提示する)。

(2) 復習は、授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを調べる。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。この講義を受講するに際し、経営学の基礎的な知識が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営戦略と事業戦略	授業の概要説明と進め方 経営学、経営戦略、事業戦略を学ぶ意義について理解する
2	事業戦略の考え方	事業戦略の役割について理解する
3	差別化戦略	他社との違いを生み出す戦略について理解する
4	低コスト戦略	低コスト戦略の狙いと実現方法について理解する
5	専門性を高める戦略	戦略類型から専門性を高める戦略の位置づけを理解する
6	顧客ニーズと戦略	顧客の類型化とターゲティングについて理解する
7	事例研究	具体的な事例を探し、レポートを作成する
8	製品と戦略	製品ライフサイクルについて理解する
9	業界標準と製品戦略	業界標準の種類について理解し、戦略に与える影響について理解する
10	新製品戦略	イノベーション、新製品開発について理解する
11	事業範囲と戦略	自社の業務範囲を決定する必要性と意味について理解する
12	知的財産戦略	特許権、著作権など知的財産と戦略との関係について理解する
13	競争優位の構築	競争優位の源泉および競争優位持続のための戦略について理解する
14	事業環境分析	企業の環境分析およびM・ポーターの5つの競争要因について理解する
15	学習のまとめ	学習内容の振り返りと確認

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	経営学研究 B				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

多くの企業にとって経営のグローバル化は避けて通れない流れである。現代社会における企業経営を理解するために、この講義では国際経営を中心的課題として扱う。

内容としては、経営管理論と組織論を基礎に置きながら多国籍企業（グローバル企業）に関する議論の流れを理解し、国際経営戦略およびマネジメントの基本的理解を深める。

《授業の到達目標》

国際経営の基礎的な理論を理解することができる。
企業のグローバルな行動について理論的に考える力を養うことができる。

《成績評価の方法》

(1) 平常点（テキストのまとめ作成と報告）を50% (2) 授業内でのディスカッションを10% (3) レポート作成を10% (4) 授業時間内において行う持ち込み不可の確認テスト30%として評価する。

《テキスト》

『国際経営を学ぶ人のために』池田芳彦、茂垣広志、根本孝編著、世界思想社、2001

《参考文献》

『新グローバル経営論』安室憲一 編著、2007

《授業時間外学習》

(1) 予習は、テキストのまとめ作成（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。

(2) 復習は、授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを調べること。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。この講義を受講するに際し、経営学の基礎的な知識が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営学と国際経営	授業概要の説明と進め方 経営学とは何か、国際経営論を学ぶ意義について学ぶ
2	グローカリゼーションと国際経営	グローカリゼーションと国際経営の意味について理解する
3	企業の国際化理論	国際化プロセス、事業展開のパターンについて理解する
4	企業の国際化理論	パーノンモデル、EPRGモデルについて理解する
5	企業の国際化理論	内部化理論と折衷理論について理解する
6	国際経営における研究開発	企業の研究開発について理解する
7	国際提携戦略	多国籍企業の提携戦略について理解する
8	事例研究	国際経営にかかわる事例を探し、レポートにまとめる
9	国際マーケティング戦略	多国籍企業のマーケティング戦略について理解する
10	国際調達・生産戦略	多国籍企業の生産戦略を中心に、国際調達についても理解する
11	国際経営と企業文化	国際化と企業文化の関係について理解する
12	国際人事管理	多国籍企業の国際人事戦略について理解する
13	国際人材開発	多国籍企業の国際人材開発戦略について理解する
14	日本的経営の経営移転	日本型経営のグローバリゼーションについて理解する
15	学習のまとめ	学習内容のふり返りと確認

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	税務会計研究 A				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

法人税法の基礎概念と利益計算の基礎を習得する。特に、企業会計上の利益と法人税法上の所得の違いを確認し、企業会計上の利益から法人税法上の課税所得を導く過程を重要な概念を中心に学習する。

《テキスト》

授業中に指示。

《参考文献》

授業中に指示。

《授業の到達目標》

職業会計人として必要な法人税法の基礎知識を習得。

《授業時間外学習》

最新の会計事情、税法の改正について情報を収集するよう努めること。

《成績評価の方法》

発表等の授業への積極性。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	税務会計の位置づけ	税法の体系と税務会計 法人税と税務会計
2	法人税の納税義務者と課税所得	法人の種類と課税所得
3	同族会社	同族会社制度の趣旨、同族会社の定義、同族会社に対する法人税法の取り扱い
4	所得金額計算の仕組み	公正妥当な会計処理の意義。益金と損金の意義。資本等取引の除外、確定決算主義
5	益金の額の計算 1	収益計上時期
6	益金の額の計算 2	受取配当金の益金不算入
7	益金の額の計算 3	還付金、資産評価益の益金不算入
8	損金の額の計算 1	費用損失の計上時期
9	損金の額の計算 2	棚卸資産と売上原価
10	損金の額の計算 3	租税公課
11	損金の額の計算 4	交際費、寄付金
12	損金の額の計算 5	役員報酬・賞与、退職給与
13	資産と償却費 1	固定資産と減価償却
14	資産と償却費 2	償却限度額の計算
15	資産と償却費 3	繰延資産と償却

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	税務会計研究 B				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

税務会計研究Aに続き、法人税法の基礎概念と利益計算の基礎を習得する。特に、企業会計上の利益と法人税法上の所得の違いを確認し、企業会計上の利益から法人税法上の課税所得を導く過程の重要な概念を中心に学習する。

《テキスト》

授業中に指示。

《参考文献》

授業中に指示。

《授業の到達目標》

職業会計人として必要な法人税法の基礎知識を習得。

《授業時間外学習》

最新の会計事情、税法の改正について情報を収集するよう努めること。

《成績評価の方法》

発表等の授業への積極性。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	資産と償却費 4	資産の評価損
2	資産と償却費 5	圧縮記帳の意義と会計処理の基礎
3	資産と償却費 6	国庫補助金で取得した固定資産の圧縮記帳
4	資産と償却費 7	保険金で取得した固定資産の圧縮記帳
5	資産と償却費 8	交換で取得した固定資産の圧縮記帳
6	有価証券 1	有価証券の譲渡損益
7	有価証券 2	有価証券の評価
8	引当金 1	引当金の意義と会計処理の基礎
9	引当金 2	貸倒損失制度の意義と会計処理
10	引当金 3	貸倒引当金
11	引当金 4	退職給付引当金
12	欠損金	繰越と繰り戻し
13	税額計算 1	税額計算の基本的仕組み
14	税額計算 2	同族会社の留保金課税
15	税額計算 3	税額控除

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	税法研究A				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

日本の税法の基本体系並びに基礎概念を習得した上で、日本の税体系の根幹を形成する所得税法について学習する。

《テキスト》

授業中に指示。

《参考文献》

授業中に指示。

《授業の到達目標》

職業会計人として必要な税法の全体像並びに所得税の基礎知識を習得。

《授業時間外学習》

最新の会計事情、税法の改正について情報を収集するよう努めること。

《成績評価の方法》

発表等の授業への積極性。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本の税法体系 1	国税と地方税、間接税と直接税、水平的公平と垂直的公平といった基礎概念の習得
2	日本の税法体系 2	各税法の概要と税収に占める割合等
3	所得税法の基本時枠組み	税額計算の流れと基礎概念
4	納税義務者	居住者、非居住者、永住者、法人の概念と課税所得
5	各種所得金額の計算 1	利子所得
6	各種所得金額の計算 2	配当所得
7	各種所得金額の計算 3	不動産所得 1
8	各種所得金額の計算 4	不動産所得 2
9	各種所得金額の計算 5	事業所得 1（所得の内容と範囲、収入金額、収入金額の計上時期）
10	各種所得金額の計算 6	事業所得 2（売上原価）
11	各種所得金額の計算 7	事業所得 3（減価償却）
12	各種所得金額の計算 8	事業所得 4（貸倒損失）
13	各種所得金額の計算 9	事業所得 5（引当金）
14	各種所得金額の計算 10	事業所得 6（専従者給与、青色申告特別控除）
15	消費税の経理処理	税抜き処理と税込処置

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	税法研究B				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

税法研究Aに続き、日本の税体系の根幹を形成する所得税法について学習する。

《テキスト》

授業中に指示。

《参考文献》

授業中に指示。

《授業の到達目標》

職業会計人として必要な税法の全体像並びに所得税の基礎知識を習得。

《授業時間外学習》

最新の会計事情、税法の改正について情報を収集するよう努めること。

《成績評価の方法》

発表等の授業への積極性。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各種所得金額の計算 1 1	給与所得
2	各種所得金額の計算 1 2	退職所得
3	各種所得金額の計算 1 3	譲渡所得
4	各種所得金額の計算 1 4	山林所得
5	各種所得金額の計算 1 5	一時所得
6	各種所得金額の計算 1 6	雑所得
7	損失の繰越控除	純損失の繰越控除、雑損失の繰越控除
8	所得控除 1	所得控除の意義と概要
9	所得控除 2	雑損控除、医療費控除、社会保険料控除
10	所得控除 3	小規模企業共済等掛金控除、生命保険料控除、地震保険料控除
11	所得控除 4	寄付金控除、障害者控除、寡婦（夫）控除、勤労学生控除
12	所得控除 5	配偶者控除、配偶者特別控除、扶養控除、基礎控除
13	税額の計算	税額計算の概要、超過累進課税の意義と仕組み
14	税額控除	配当控除の意義と仕組み、外国税額控除
15	納付税額	納付税額の確定と還付の処理

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域計画研究A				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期

《授業の概要》

地域計画の背景にある地方財政の重要性から、現代の地域経営における地方財政の役割とを学ぶ。

《テキスト》

本間正明、斉藤慎編『地方財政改革』有斐閣
大住荘四郎『ニュー・パブリックマネジメント』日本評論社

《参考文献》

授業内で指示をする。

《授業の到達目標》

NPMの考え方に基づく、現代の地方財政政策について理解する。

《授業時間外学習》

与えられた部分を事前に読み、レジюмеを作成し、また質問等に答えるように準備をする。

《成績評価の方法》

レポート及び、授業への参加状況。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進め方について	輪読の順番を決めるなど、授業の進め方を解説。
2	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
3	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
4	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
5	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
6	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
7	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
8	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
9	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
10	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
11	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
12	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
13	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
14	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
15	まとめ	まとめのレポート作成。

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域計画研究B				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業の概要》

地域計画に必要な手法である空間分析について学ぶ。

《テキスト》

田中和子『都市空間分析』古今書院

《参考文献》

授業内で指示する。

《授業の到達目標》

空間分析について理解する。

《授業時間外学習》

与えられた部分を事前に読み、レジュメを作成し、また質問等に答えるように準備をする。

《成績評価の方法》

レポート及び、授業への参加状況。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進め方について	輪読の順番を決めるなど、授業の進め方を解説。
2	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
3	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
4	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
5	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
6	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
7	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
8	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
9	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
10	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
11	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
12	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
13	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
14	図書の輪読	順次与えられた箇所を読み報告を行う。
15	まとめ	まとめのレポート作成。

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域行政研究 A				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

明治期の町村合併と平成期の市町村合併の比較を通じて新しい地方自治の理念と制度について検討する。

《テキスト》

『地方分権改革』
西尾勝、東京大学出版会、2007

《参考文献》

『包括的地方自治ガバナンス改革』
村松岐夫、東洋経済新報社、2003
『関西圏の地域主義と都市再編』
生田真人、ミネルヴァ書房、2008

《授業の到達目標》

わが国の地方自治の特質と課題を歴史的観点から理解することができる。

《授業時間外学習》

教科書の指定された箇所、あるいは指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《成績評価の方法》

授業中の報告(50%)・討論(50%)により評価する。授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室(1W-112)を訪ねてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方および成績評価に関する説明
2	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(1)
3	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(2)
4	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(3)
5	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(4)
6	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(5)
7	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(6)
8	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(7)
9	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(8)
10	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(9)
11	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(10)
12	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(11)
13	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(12)
14	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義(13)
15	学習のまとめ	演習の総括と今後の課題について

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域行政研究 B				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

米国の連邦制の理念と仕組みについて学んだうえで、わが国の地方自治の受け皿としての道州制導入の可能性について検討する。

《テキスト》

資料を配布する。

《参考文献》

The American Mosaic, Daniel J. Elazar,
Westview Press, 1994

『地方政府のガバナンスに関する研究』

総合研究開発機構、NIRA研究報告 No.980117

《授業の到達目標》

政府間関係の国際比較を通じて、わが国の地方制度の特徴を立体的な視点から把握することができる。

《授業時間外学習》

指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《成績評価の方法》

授業中の報告(50%)・討論(50%)により評価する。授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室（1W-112）を訪ねてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方および成績評価に関する説明
2	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（1）
3	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（2）
4	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（3）
5	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（4）
6	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（5）
7	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（6）
8	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（7）
9	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（8）
10	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（9）
11	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（10）
12	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（11）
13	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（12）
14	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（13）
15	学習のまとめ	演習の総括と今後の課題について

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報システム研究 A				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

生活や社会の至る所にコンピュータが存在し、コンピュータ同士が自律的に連携して動作することにより、人間の生活を強力にバックアップする情報環境として、ユビキタスコンピューティングが注目されている。本講義では、ユビキタスコンピューティングにおけるさまざまな情報システムの技術について学び、ユビキタスコンピューティングにより実現されるユビキタス社会の本質を明らかにすることを目標とする。

《授業の到達目標》

- ・ユビキタスコンピューティングに関する文献が読める
- ・ユビキタスコンピューティングに関するレポートが書ける

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

参考文献は輪読を進めながら紹介する。

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、ユビキタスコンピューティングの説明
2	文献輪講	文献(1)の輪読
3	文献輪講	文献(1)の課題報告
4	文献輪講	文献(2)の輪読
5	文献輪講	文献(2)の課題報告
6	文献輪講	文献(3)の輪読
7	文献輪講	文献(3)の課題報告
8	文献輪講	文献(4)の輪読
9	文献輪講	文献(4)の課題報告
10	文献輪講	文献(5)の輪読
11	文献輪講	文献(5)の課題報告
12	文献輪講	文献(6)の輪読
13	文献輪講	文献(6)の課題報告
14	報告	最終レポートの報告と質疑応答
15	報告	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報システム研究B				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

人間とコンピュータが深くかかわる情報システムがいかに重要かは、システムが障害を起こしたり利用できなくなったりする度に強く認識させられる。また、社会生活のクリティカルな部分を担えば担うほど、その安全性・信頼性・頑強性が強く求められる。本講義では、情報システムの開発と運用において、システムの信頼性を導く開発手法ならびに運用方法を学び、情報システムにとって何が重要かを明らかにする。

《授業の到達目標》

- ・情報システムの信頼性向上に関する文献が読める
- ・情報システムにとって重要なことに関するレポートが書ける

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

参考文献は輪読を進めながら紹介する。

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、情報システムの重要性を障害事例をもとに説明
2	文献輪講	文献(1)の輪読
3	文献輪講	文献(1)の課題報告
4	文献輪講	文献(2)の輪読
5	文献輪講	文献(2)の課題報告
6	文献輪講	文献(3)の輪読
7	文献輪講	文献(3)の課題報告
8	文献輪講	文献(4)の輪読
9	文献輪講	文献(4)の課題報告
10	文献輪講	文献(5)の輪読
11	文献輪講	文献(5)の課題報告
12	文献輪講	文献(6)の輪読
13	文献輪講	文献(6)の課題報告
14	報告	最終レポートの報告と質疑応答
15	報告	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報処理研究 A				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

インターネット上の情報を価値化・知識化する技術に関してできる限り新しい動向を紹介しします。さらに、簡単なスクリプト言語を用いた実習によって理解を深めます。

《テキスト》

特に用いません。

《参考文献》

適宜紹介しします。

《授業の到達目標》

インターネット上では、今まで情報を発信してきた企業や専門家に加えて、Blogや掲示板を使って一般消費者によって発せられた情報に重要性にも注目が集まっています。このような情報をより有効に利用するために重要になるのは、情報を収集・抽出する技術、分析・評価する技術、そして実社会において活用する技術です。そのような技術に関する最近の研究を知ることができます。

《授業時間外学習》

実習、研究に必要な調査は授業時間外に行ってもらいます。

《成績評価の方法》

毎回のレポート（40%）と期末のレポート（60%）で行います。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	集合知	集合知とは何かを学ぶ。
2	協調フィルタリング	協調フィルタリングについて学び、推薦の方法を理解する。
3	C G Mマイニング	C G Mマイニングとは何かを理解する。
4	教師あり学習と教師なし学習	教師あり学習と教師なし学習の具体的な手法を学ぶ。
5	クラスタリング	階層的クラスタリングについて学ぶ。
6	検索エンジン	検索エンジンの概要を学ぶ。
7	検索エンジンの仕組み	検索エンジンが採用するアルゴリズムについて学ぶ。
8	最適化 1	グループ旅行のプランニングを通して最適化の手法を学ぶ。
9	最適化 2	ソーシャルネットワークを使って最適化の手法を学ぶ。
10	ドキュメントフィルタリング	スパムメールのフィルタリングを学ぶ。
11	決定木	決定木の基礎を学ぶ。
12	決定木を使ったモデリング	具体例を決定木を使ってモデリングする。
13	価格予測モデル	価格予測のアルゴリズムを学ぶ。
14	高度な分類手法	線形分類器とカーネルメソッド
15	授業のまとめ	情報収集、分析手法について考える。

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報処理研究 B				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

ヒューマンインタフェースの概念およびユーザインタフェース設計技法について学びます。社会の情報化に伴って生じている様々な問題点を解決するためのひとつの手掛かりは、ITのあり方を人間の側から見直すことです。この授業はそのための基礎となる考え方を学びます。

《テキスト》

特に用いません。

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

誰でも容易に使える家電製品、操作しやすく疲れない情報機器など、将来の装置やシステムの設計における基本的な考え方を理解し、具体的な設計方法について議論できる力をつけることを目標とします。

《授業時間外学習》

実習、研究に必要な調査は授業時間外に行ってもらいます。

《成績評価の方法》

毎回のレポート（40%）と期末のレポート（60%）で行います。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ヒューマンインタフェースの概要	ヒューマンインタフェースの概念と歴史について学ぶ。
2	コンピュータとヒューマンインタフェース	GUIの登場によるユーザインターフェースの変化
3	人間の情報処理モデル	人間の感覚や行動のモデル化を知る。
4	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーの種類と原因、さらに予防的対策について学ぶ。
5	人間サイドからの設計	メンタルモデルについて学ぶ。
6	情報の入力方法	情報機器の様々な入力方法の概念を学ぶ。
7	情報の出力方法	検索エンジンが採用するアルゴリズムについて学ぶ。
8	インタラクション	インタラクションの設計方法について学ぶ。
9	ユーザのアシスト	わかりやすいヘルプやマニュアルの考え方を学ぶ。
10	ユーザビリティ評価	ユーザビリティの評価方法について学ぶ。
11	インタラクションの拡張	オーグメンテッドリアリティについて学ぶ。
12	モバイルヒューマンインタフェース	モバイル情報機器のインタフェースについて学ぶ。
13	コミュニケーション支援	ソーシャルインタフェースについて学ぶ。
14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの設計方法について学ぶ。
15	ヒューマンインタフェースの新しい動き	実世界指向インタフェース

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報伝達研究 A				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

情報伝達とは発信源で生じた情報を、そのまま、または加工して目的とする場所（時代）に正確に伝えるシステムの総称である。往々にして情報伝達は、情報通信と混同されがちであるが、情報通信をこのなかを含むことこそすれ、それにも増してもっと広い意味を有する言葉である。本研究では、代表的な発信源、伝達方式、および受信技術を一連の情報伝達と捕らえ、これを学習する。

《授業の到達目標》

- ・「情報とは何か」について情報と情報量が説明できる。
- ・アナログ/デジタル伝送方式や受信方式が説明できる。
- ・電話音声、画像および光信号は情報源としてどのように表されるか説明できる。

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

参考文献は輪読を進めながら紹介する。

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、情報伝達の説明
2	文献輪講	文献(1)の輪読
3	文献輪講	文献(1)の課題報告
4	文献輪講	文献(2)の輪読
5	文献輪講	文献(2)の課題報告
6	文献輪講	文献(3)の輪読
7	文献輪講	文献(3)の課題報告
8	文献輪講	文献(4)の輪読
9	文献輪講	文献(4)の課題報告
10	文献輪講	文献(5)の輪読
11	文献輪講	文献(5)の課題報告
12	文献輪講	文献(6)の輪読
13	文献輪講	文献(6)の課題報告
14	報告	最終レポートの報告と質疑応答
15	報告	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報伝達研究 B				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

情報伝達とは（自分の）意志を相手に正確に伝える事柄を指す。意志を伝えるのは情報分野だけでなく、経済・金融・産業界など全ての分野で稟議(りんぎ)と云う形で上達するのが普通である。本講義では情報システムの手法を中心に、情報の上達（伝達）手法を学習する。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

参考文献は輪読を進めながら紹介する。

《授業の到達目標》

- ・ 情報の上達手法が説明できる。
- ・ 情報伝達の認知学、心理学、社会学との関わりが説明できる。

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、情報伝達の説明
2	文献輪講	文献(1)の輪読
3	文献輪講	文献(1)の課題報告
4	文献輪講	文献(2)の輪読
5	文献輪講	文献(2)の課題報告
6	文献輪講	文献(3)の輪読
7	文献輪講	文献(3)の課題報告
8	文献輪講	文献(4)の輪読
9	文献輪講	文献(4)の課題報告
10	文献輪講	文献(5)の輪読
11	文献輪講	文献(5)の課題報告
12	文献輪講	文献(6)の輪読
13	文献輪講	文献(6)の課題報告
14	報告	最終レポートの報告と質疑応答
15	報告	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報検索研究 A				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

講義ではニューロコンピュータを構成するニューロンモデルについて説明し、それを多層に構成したニューラルネットワークおよびその学習法であるバックプロパゲーション法について説明する。また遺伝的アルゴリズムについては問題を遺伝子として表現し、その遺伝子に対して交叉・選択を繰り返して最適化を進める方法を説明する。また、これらの技術を利用した応用例についても学習を行う。

《授業の到達目標》

近年、大量のデータから有効な情報を発見するための情報処理方法として、人間の脳に着想を置くニューロコンピュータや、生物の進化過程に着想を置く遺伝的アルゴリズムなどが注目されている。本講義ではこれらの技術の基礎を学ぶとともに、その応用について研究を行う。

《成績評価の方法》

授業に対する取り組み（20%）とレポート（80%）に基づいて評価します。

《テキスト》

『ニューロコンピュータの基礎』中野馨 コロナ社
『遺伝アルゴリズムとニューラルネット』電気学会編 コロナ社

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回予習と復習を行ってください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	パーセプトロン	ニューラルネットワークの基本構成要素であるパーセプトロンについて
2	ヘップの学習則	パーセプトロンの学習について
3	シグモイド関数を使ったニューロンモデル	シグモイド関数を使ったニューロンモデルとその学習法について
4	多層ネットワークとバックプロパゲーション	多層に構成されたニューラルネットワークとその学習法について
5	多層ネットワークの応用	多層ニューラルネットワークの応用例について
6	自己組織化マップ	自己組織化マップの仕組みとその学習について
7	遺伝アルゴリズムの基礎	遺伝アルゴリズムの仕組みとその学習法について
8	遺伝アルゴリズムの応用	遺伝アルゴリズムの応用例について
9	遺伝アルゴリズムの応用	遺伝アルゴリズムの応用例について
10	個別課題	各自が設定した課題に対してニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムを活用したアプローチを考えていただきます
11	個別課題	各自が設定した課題に対してニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムを活用したアプローチを考えていただきます
12	個別課題	各自が設定した課題に対してニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムを活用したアプローチを考えていただきます
13	個別課題	各自が設定した課題に対してニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムを活用したアプローチを考えていただきます
14	個別課題	各自が設定した課題に対してニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムを活用したアプローチを考えていただきます
15	個別課題	各自が設定した課題に対してニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムを活用したアプローチを考えていただきます

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報検索研究 B				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

講義では代表的なクラスタリング手法であるC平均法，ファジィC平均法，混合密度分布モデル，階層的クラスタリング法などについて説明します。また，これらの技術を利用した応用例についても学習を行う。

《テキスト》

『クラスタ分析入門』宮本定明著 森北出版株式会社

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

大量のデータの中から有効な知識を導く手法のひとつとして，似ているデータをグループごとにまとめて分析を行うクラスタリングという手法が使われている。本講義ではこのクラスタリングの基礎を学ぶとともに，その応用について研究を行う。

《授業時間外学習》

毎回予習と復習を行ってください。

《成績評価の方法》

授業に対する取り組み（20%）とレポート（80%）に基づいて評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	クラスタ分析の概要	クラスタ分析がどのようなものでどのように利用されているか説明する
2	C平均法	クラスタへの所属度を0か1かで表現するC平均法について
3	ファジィC平均法	クラスタへの所属度をファジィ値で表現するファジィC平均法について
4	混合密度分布モデル	クラスタを確率分布モデルとして表現する混合密度分布モデルについて
5	その他の手法	その他の手法の紹介
6	様々なデータの類似度	数値以外のデータについての類似性の取り扱いについて
7	階層的クラスタリング法	近いデータから順にグループを作成していく階層的クラスタリング法について
8	最短距離法と最長距離法	階層的クラスタリング法で使われる距離計算法の最短距離法と最長距離法について
9	群間平均法とワード法	階層的クラスタリング法で使われる距離計算法の群間平均法とワード法について
10	個別課題	各自が設定した課題に対してクラスタ分析を活用したアプローチを考えていただきます
11	個別課題	各自が設定した課題に対してクラスタ分析を活用したアプローチを考えていただきます
12	個別課題	各自が設定した課題に対してクラスタ分析を活用したアプローチを考えていただきます
13	個別課題	各自が設定した課題に対してクラスタ分析を活用したアプローチを考えていただきます
14	個別課題	各自が設定した課題に対してクラスタ分析を活用したアプローチを考えていただきます
15	個別課題	各自が設定した課題に対してクラスタ分析を活用したアプローチを考えていただきます

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	コンピュータグラフィックス研究A				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

オープンソースの3次元CG処理系を用いて、3次元CGにおけるデータ表現とユーザインタフェースについて研究する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

3次元CGの機能と、それを実現するための技術、データ構造、ユーザインタフェースについて理解する。

《授業時間外学習》

作品制作を行いながら、コンピュータ内でどのような処理がなされているのか考えること。

《成績評価の方法》

研究内容、作品、レポート

《備考》

自らが積極的に課題意識をもって取り組むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	利用ソフトの概要	3次元CG処理系とは
2	モデリング	モデリングの機能とその種類について
3	レンダリング	レンダリングの機能とその種類について
4	アニメーション	アニメーションの機能とその種類について
5	モデリングとデータ構造	基本形状とそのデータ構造
6	モデリングとデータ構造	メッシュ形状とそのデータ構造
7	モデリングとデータ構造	カメラ、ライトなどのデータ構造
8	モデリングとデータ構造	シーン全体のデータ構造
9	ユーザインターフェース	形状配置のユーザインターフェース
10	ユーザインターフェース	形状作成のユーザインターフェース
11	ユーザインターフェース	形状編集のユーザインターフェース
12	ユーザインターフェース	レンダリングのユーザインターフェース
13	ユーザインターフェース	アニメーションのユーザインターフェース
14	ユーザインターフェース	使いやすさについて考える
15	ユーザインターフェース	データ構造とユーザインターフェースの関係について考える

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	コンピュータグラフィックス研究B				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

オープンソースの3次元CGの処理系を用いて、スクリプトによる形状作成について研究する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

3次元CGにおける形状のデータ表現と、スクリプトによる生成方法について理解する。

《授業時間外学習》

作品制作を行いながら、コンピュータ内でどのような処理がなされているのか考えること。

《成績評価の方法》

研究内容、作品、レポート

《備考》

自らが積極的に課題意識をもって取り組むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	利用ソフトの概要	3次元CG処理系とは
2	モデリング	モデリングの機能とデータ構造
3	レンダリング	レンダリングの機能とデータ構造
4	アニメーション	アニメーションの機能とデータ構造
5	基本形状	基本形状とそのデータ構造
6	メッシュ形状	メッシュ形状とそのデータ構造
7	メッシュ形状	メッシュ形状の編集
8	スクリプト	スクリプト言語について
9	スクリプト	特定の形状を生成するスクリプト
10	スクリプト	いくつかの形状を生成するスクリプト
11	スクリプト	形状を変形するスクリプト
12	スクリプト	形状を分解するスクリプト
13	スクリプト	形状を合成するスクリプト
14	スクリプト	スクリプトとユーザインターフェース
15	スクリプト	役に立つスクリプト

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報通信研究A				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

コンピュータシステムの研究において、ネットワーク通信に関する深い知識は欠かせません。広範な技術から成り立つネットワーク通信技術を、プロトコル階層に基づいて詳細を学び、その内容を整理します。情報通信研究Aでは物理層からネットワーク層までの下位層を対象とします。

《テキスト》

『Computer Networks (International Students Edition)』、Tanenbaum著、(Prentice Hall社)

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

通信プロトコルの下位層についての技術論文を理解できるレベルを目標とします。

《授業時間外学習》

テキストの予習と復習を徹底的に行ってください。

《成績評価の方法》

毎回の授業での発表(30%)と提出課題への対応(70%)により総合的に判断します。

《備考》

情報ネットワークプロトコルの各階層に関する基本知識を保有していることを前提とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義概要紹介	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 情報通信の概要
2	序論(1)	コンピュータネットワークの利用、ネットワークハードウェア、ネットワークソフトウェア
3	序論(2)	参照モデル、ネットワーク例、ネットワーク標準化
4	物理層(1)	データ通信の基礎理論、通信メディア
5	物理層(2)	無線通信、通信衛星
6	物理層(3)	電話交換網
7	物理層(4)	携帯電話システム、ケーブルテレビ
8	データリンク層(1)	データリンク層における設計上の問題、エラー検出とエラー訂正
9	データリンク層(2)	基礎的なデータリンクプロトコル、スライディングウィンドウプロトコル
10	データリンク層(3)	多重アクセスプロトコル
11	データリンク層(4)	イーサネットケーブル
12	ネットワーク層(1)	ネットワーク層における設計上の問題
13	ネットワーク層(2)	ルーティングアルゴリズム
14	ネットワーク層(3)	輻輳制御、サービス品質
15	ネットワーク層(4)	インターネットでのネットワーク層

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報通信研究 B				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

コンピュータシステムの研究において、ネットワーク通信に関する深い知識は欠かせません。広範な技術から成り立つネットワーク通信技術を、プロトコル階層に基づいて詳細を学び、その内容を整理します。情報通信研究Bではトランスポート層、アプリケーション層、ネットワークセキュリティを対象とします。

《授業の到達目標》

通信プロトコルの上位層についての技術論文を理解できるレベルを目標とします。

《成績評価の方法》

毎回の授業での発表(30%)と提出課題への対応(70%)により総合的に判断します。

《テキスト》

『Computer Networks (International Students Edition)』、Tanenbaum著、(Prentice Hall社)

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

テキストの予習と復習を徹底的に行ってください。

《備考》

情報ネットワークプロトコルの各階層に関する基本知識の保有と、情報通信研究 A が受講済みであることを前提とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義概要紹介	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 情報通信の概要
2	トランスポート層(1)	トランスポートサービスとは、トランスポートプロトコルの技術項目
3	トランスポート層(2)	簡単なトランスポートプロトコル
4	トランスポート層(3)	インターネットにおけるトランスポートプロトコル：UDP
5	トランスポート層(4)	インターネットにおけるトランスポートプロトコル：TCP
6	アプリケーション層(1)	インターネットにおけるドメイン名
7	アプリケーション層(2)	電子メール
8	アプリケーション層(3)	World Wide Web
9	アプリケーション層(4)	マルチメディア技術
10	ネットワークセキュリティ(1)	暗号技術の基礎
11	ネットワークセキュリティ(2)	対称鍵アルゴリズム
12	ネットワークセキュリティ(3)	公開鍵アルゴリズム
13	ネットワークセキュリティ(4)	デジタル署名
14	ネットワークセキュリティ(5)	通信回線のセキュリティ
15	ネットワークセキュリティ(6)	認証プロトコル

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報数学研究 A				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

微分方程式の解法を学び、情報学に応用できるようになる。

《テキスト》

受講生の学力に応じて選ぶ。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

1. 微分方程式の例と解法を理解する。
2. 基礎理論を理解する。
3. ラプラス変換を理解する。
4. 解の漸近挙動を理解する。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の箇所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
 予習：次回の講義部分を予習すること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、課題への取り組み(20%)

《備考》

初回に基本的な線形代数、微分積分の試験を行う。
 受講希望者は、必ず初回に出席すること。
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学力チェック	線形代数，微分積分の学力チェック試験を行う。
2	成長曲線 2種の生物の共存	1階微分方程式の解法を学ぶ。 連立微分方程式の解法を学ぶ。
3	バネによる振動	定係数2階線形微分方程式の解法を学ぶ。
4	電気回路	非斉次定係数2階線形微分方程式の解法を学ぶ。
5	基礎理論1	微分方程式の形を学ぶ。
6	基礎理論2	解の存在と一意性を学ぶ。
7	基礎理論3	解の延長を学ぶ。
8	基礎理論4	線形微分方程式の解の構造を学ぶ。
9	基礎理論5	微分演算子法を学ぶ。
10	ラプラス変換1	ラプラス変換の定義を学ぶ。
11	ラプラス変換2	ラプラス変換の公式を学ぶ。
12	ラプラス変換3	ラプラス変換の応用を学ぶ。
13	解の漸近挙動1	解の安定性を学ぶ。
14	解の漸近挙動2	相平面における安定理論を学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報数学研究 B				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

群論を学び、情報学に応用できるようになる。

《テキスト》

受講生の学力に応じて選ぶ。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

群論を理解する。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
 予習：次の講義部分を予習すること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、課題への取り組み(20%)

《備考》

初回に基本的な線形代数、微分積分の試験を行う。
 受講希望者は、必ず初回に出席すること。
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学力チェック	線形代数、微分積分の学力チェック試験を行う。
2	群	群の定義、性質、例題を学ぶ。
3	群の例	対称群、交代群などを学ぶ。
4	部分群	部分群の定義、例題を学び、生成系などを学ぶ。
5	準同型写像	準同型写像の定義、例題を学ぶ。
6	群の同型	群の同型の定義、例題を学ぶ。
7	等質集合と部分群の位数	等質集合の定義、部分群の位数の性質を学ぶ。
8	剰余群と準同型定理	剰余群の定義、準同型定理などを学ぶ。
9	完全系列	群の集合としての分解を学び、完全系列の定義、性質を学ぶ。
10	可解群	交換子群の定義、性質を学び、可解群の定義、性質を学ぶ。
11	巾零群	巾零群の定義、性質を学ぶ。
12	組成列	組成列の定義、性質を学ぶ。
13	自己同型群	自己同型群の定義、性質を学ぶ。
14	Sylow群と群の表現	Sylow群の定義、性質を学び、複素表現の定義を学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報教育研究A				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

本講義では、インストラクショナルデザインによる体系的アプローチを用いて、情報教育方法の確立を目標にかかげる。具体的には、高等学校学習指導要領に基づく共通教科情報科の科目内容を土台にし、効果的な展開方法について検討する。分析、設計、開発、実施、評価というIDプロセスの理論と実践を通して、eラーニング等を手段とした学習スタイルの効果的な教材が自作できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

情報教育のための教材テーマを自ら設定し、デザインすることができる。
 情報教育のための教材制作に、IDプロセスを用いることができる。
 情報教育のための教材を創り上げ、提示することができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出30%
 課題提出とその成果70%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

文部科学省：「高等学校学習指導要領解説 情報編」，開隆堂
 適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかつた課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要の説明	講義計画を説明するとともに、情報教育方法の概要と展開について提示をおこなう。
2	IDプロセスとは	ID(インストラクショナルデザイン)のプロセスに関する各モデルの解説をおこなう。
3	教材デザイン 分析(1)	教材を制作する上で、学習の目的や環境そして学習の内容について分析をおこなう。
4	教材デザイン 分析(2)	分析した結果をまとめ、現状把握と問題解決を目指した教材企画の提案をおこなう。
5	教材デザイン 設計(1)	教材を設計するにあたり、学習内容を定め、学習順序やスタイルの決定をおこなう。
6	教材デザイン 設計(2)	動機付けに関するモデルを取り上げ、教材の中に反映できるような設計をおこなう。
7	教材デザイン 開発(1)	設計したものをもとに、コンテンツの一部についてプロトタイプ制作をおこなう。
8	教材デザイン 開発(2)	プロトタイプ制作を経て、動画や静止画などを組み込んだ教材の開発をおこなう。
9	教材デザイン 実施(1)	実際の学習者を想定し、出来上がった自作教材の提示および学習の実施をおこなう。
10	教材デザイン 実施(2)	教材の提示を通して、学習者の目標到達度や困難と感じられる点の把握をおこなう。
11	教材デザイン 評価(1)	学習者に対する形成的評価と総括的評価をもとに、教材デザインの改善をおこなう。
12	教材デザイン 評価(2)	授業に対する形成的評価と総括的評価をもとに、教材および展開の改善をおこなう。
13	教材コンテンツの提示	これまでのIDプロセスを経て出来上がった教材コンテンツについて提出をおこなう。
14	教材コンテンツの検討	教材コンテンツを確認し、検討とともに各フェーズへのフィードバックをおこなう。
15	情報教育研究の総括	教材デザインおよびコンテンツ制作を振り返り、情報教育研究の総括をおこなう。

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報教育研究 B				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期

《授業の概要》

本講義では、インストラクショナルデザインによる体系的アプローチを用いて、情報教育方法の確立を目標にかかげる。具体的には、高等学校学習指導要領に基づく専門教科情報科の科目内容を土台にし、効果的な展開方法について検討する。分析、設計、開発、実施、評価というIDプロセスの理論と実践を通して、ブレンディッドラーニングとよばれるスタイルの展開シナリオが自作できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

情報教育のための教材テーマを自ら設定し、シナリオを制作することができる。

情報教育のための展開シナリオ制作に、IDプロセスを用いることができる。

情報教育の授業展開にブレンディッドラーニングを実施することができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出30%

課題提出とその成果70%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

文部科学省：「高等学校学習指導要領解説 情報編」，開隆堂
適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかつた課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要の説明	講義計画を説明するとともに、情報教育方法の概要と展開について提示をおこなう。
2	ブレンド型授業の展開	対面授業とeラーニングを合わせた、ブレンディッドラーニングの解説をおこなう。
3	展開シナリオ 分析(1)	展開シナリオを制作するにあたり、学習の目標を明確にするための分析をおこなう。
4	展開シナリオ 分析(2)	到達したい最終の学習目標に必要な小学習目標を定めるための分析をおこなう。
5	展開シナリオ 設計(1)	学習目標の詳細化、構造化、系列化をもとに授業の展開スタイルの設計をおこなう。
6	展開シナリオ 設計(2)	学習の動機付けとしてのARCSモデルを取り上げ、展開シナリオへの反映をおこなう。
7	展開シナリオ 開発(1)	設計を経て、コンテンツと展開シナリオについてのプロトタイプ制作をおこなう。
8	展開シナリオ 開発(2)	開発にあたり、オーサリングソフトの活用とその有用性についての解説をおこなう。
9	展開シナリオ 実施(1)	ブレンド型授業の参考とするため、教育現場の実施事例についての解説をおこなう。
10	展開シナリオ 実施(2)	実際の学習者を想定し、出来上がった展開シナリオの提示と授業の実施をおこなう。
11	展開シナリオ 評価(1)	学習者に対する形成的評価と総括的評価をもとに、展開シナリオの改善をおこなう。
12	展開シナリオ 評価(2)	授業に対する形成的評価と総括的評価をもとに、教材と進行具合の改善をおこなう。
13	展開コンテンツの提示	これまでのIDプロセスを経て出来上がった展開コンテンツについて提出をおこなう。
14	展開コンテンツの検討	展開コンテンツを確認し、検討とともに各フェーズへのフィードバックをおこなう。
15	情報教育研究の総括	教材および展開コンテンツとシナリオを振り返り、情報教育研究の総括をおこなう。

科目名	特別研究(論文指導)				
担当者氏名	池本廣希、三宅伸二、高本茂、堀池聡、山本真弓、石原敬子、穂積隆広、榎木浩、竹川宏子				
授業方法	演習	単位・必選	必修	開講年次・開講期	全学年・通年

《授業の概要》

研究目的に沿って修士論文を作成する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

担当教員が研究テーマ、研究の進捗状況に合わせて適宜指示する。

《授業の到達目標》

修士論文を完成させる。

《授業時間外学習》

授業時間外の学習・研究が中心となる。
授業は研究成果を報告する場と位置づけ、精力的に研究を進めること。

《成績評価の方法》

修士論文作成過程での研究への取り組みの姿勢と修士論文に関する発表内容をもって評価する。
評価の割合は、研究への取り組みを50%、発表内容を50%とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	今学期の目標設定	今学期、どのように研究を進めるかを担当教員と相談する。 参考文献などを指示する。
2	専門書の輪読と発表(1)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
3	専門書の輪読と発表(2)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
4	専門書の輪読と発表(3)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
5	専門書の輪読と発表(4)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
6	専門書の輪読と発表(5)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
7	専門書の輪読と発表(6)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
8	専門書の輪読と発表(7)	担当教員から指示された文献を熟読し、その内容を報告し、議論して理解を深める。
9	研究テーマの設定	論文作成に向けて、今学期の研究テーマを設定する。
10	研究内容の発表と論文指導(1)	担当教員の指導の下、研究を進め、成果を発表する。
11	研究内容の発表と論文指導(2)	担当教員の指導の下、研究を進め、成果を発表する。
12	研究成果の発表と論文指導(3)	担当教員の指導の下、研究を進め、成果を発表する。
13	研究成果の発表と論文指導(4)	担当教員の指導の下、研究を進め、成果を発表する。
14	研究成果の発表と論文指導(5)	担当教員の指導の下、研究を進め、成果を発表する。
15	今学期の研究のまとめ	今学期の研究内容を報告する。